

HELLO PSJ

「ハズゴーン」この言葉から私のアメリカ留学が始まった

Department of Ophthalmology and Visual Science, University of Texas Medical School at Houston
星 秀夫

私は現在、Houstonにある University of Texas Medical School, Department of Ophthalmology and Visual Science の Dr. Steve Mills のもとでポスドク研究員として勤務しています。University of Texas の本校は同テキサス州の Austin にあります。ここ Houston は分校にあたり、大学院生以上しかいない Medical School です。周りには Baylor College of Medicine, MD Anderson Cancer Center, Rice University, University of Houston そしてそれに付随するたくさんの病院があり、メディカルセンターと呼ばれるアメリカ屈指の巨大医療都市を形成しています。街のいたるところでは英語やスペイン語を耳にすることができます。これはおそらくテキサス州がメキシコとの国境に位置しているからだと考えられます（テキサス州がメキシコから独立した最初の州だったということもひとつの理由かもしれません）。

仕事

私の研究は網膜神経ネットワークの解析です。網膜は突出した脳の一部です。古くから神経機能を解析するための最適な研究モデルとして多領域の研究分野で用いられています。これまでの研究から、形態学的特性とその機能がほぼ一致していることが明らかになっています。私たちのグループは、Ramon y. Cajal 以降少しずつ明らかにされてきた、無数の細胞から出た配線が、「なぜここで、この細胞とこのような結合をする必要があるのか？」ということシナプス結合、ギャップ結合に焦点をあてて研究しています。多くの細胞の中

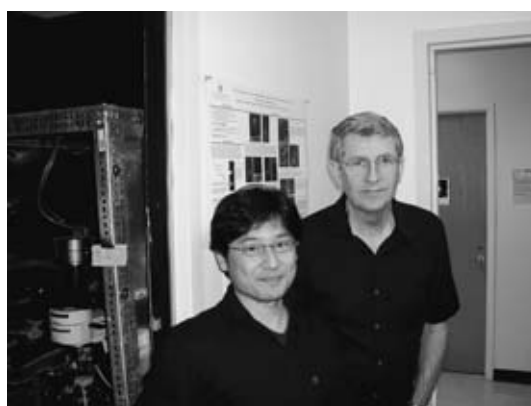


Fig.1 ポスの Dr. Mills (右) と筆者 (左)。

から、目的の細胞に色素を注入して、その美しい広がりを見ると、個々の細胞によって個性があるんだな〜という想像を掻き立ててくれます。一つの細胞が周りの細胞に大きく影響されていることも形態学的な実験でわかってきます。まるで人間同士のようです。このような形態学的な考察から、その細胞の機能を予測して、電気生理学的実験へと移行するので、私だけでなく周りのスタッフも最終的な目標を見失うことが少ないようです。

留学について

研究面と総合面で話を進めたいと思います。まず研究面。何より大きいと思ったのが、実験をする際、「どうなるとおもしろいかなー」と、常にストーリーを考えるようになるということです。データをボスとディスカッションする時も、どういストーリーにするのかとボスは尋ねてきま

す。これにより闇雲な実験を避ける機会が減り、短い時間でペーパーにすることが可能になるのかもしれませんが。もちろん、グラントプロポーザルを提出する段階でボス自身、大まかなストーリーはできているのですが、実験が進むにつれて、新たな発見もあり、それが改訂していくため、常にストーリーありきです。2番目は、その速さの中にも常に慎重さを求めるようになることです。私のボスの Dr. Mills と、Department の大ボスの Dr. Massey は、日頃から「carefully, convincing」という言葉を使います。自分の中で、「これは convincing だ」と思っても、データで彼らを説得できなくては、結局独りよがりなものになってしまうので、常に慎重になるように教育されてます。これらのことは日本の研究室でもそうかもしれません。3番目に、セミナーが多く、他分野の研究の話も聞くことができます。そして最後は(研究上の)語学力の向上です。学会の発表も普段の仕事の会話やジャーナルクラブの発表などで自然と向上できると思われます(あくまで研究英語…)。学会の口頭発表の後、他の有名な研究者からファーストネームで呼ばれるようになると、これは純粹にうれしいものです。

次に総合面です。私の中では、「留学で得られる大切なものは何か？」とたずねられたら、真っ先に「人との出会い」と答えるでしょう。この出会いは外国人だけでなく日本人も含めてです。運のいいことに、私は周りの日本人の方々にとっても恵まれています。もう帰国なさった方も大勢おられますが、お会いした時間の中で分野の違う研究の話をしたり、一緒に馬鹿なことをやって遊んだり、貴重な時間を過ごさせてもらっています。もしかしたら日本の学会で出会っても、言葉を交わすことのないまま通り過ぎるだけの可能性もあるわけですから、この縁を大切にしたいと思っています。さらにボスやその周りの方々を見ると、皆すごく穏やかでフレンドリーです。もちろん普段はファーストネームで呼び合います。偉ぶらずに、相手が大学院生であろうと、ポスドクであろうと、また小さい子供に対しても「どう思う？」と意見を尋ねます。これは研究者だけでなく、一人の人



Fig. 2 Dr. Massey 宅でのパーティーの様子。Dr. Massey (右から4番目)と筆者(右から5番目)が手に持っているビールはDr. Massey 本人が作ったビールである。

間としても大切なことだと感じています。アメリカの子供たちはしっかりと自分の考えを持っています。彼らは常日頃から大人からの質問に慣れています。それを聞いている大人たちもなるべくそれを尊重しようと真剣に話を聞き、返答します。だから聞かれるほうも嫌がらずに、お互いがお互いの話を繰り返すことで、彼らはいいい関係を築いているようです。この留学で私の目標とする人物にも出会うことができました。

留学の利点をいくつか述べましたが、日本にも海外同様な魅力的な仕事をしている研究室が多数あります。論文を読んでいても、日本人のものはかなり丁寧で緻密だなと感じます。留学には運とタイミングがあるかもしれませんが、留学を決める際は、直接自分の目で確かめてみることをお勧めします。また、アメリカ留学を楽しくするためには、笑顔での挨拶と、パーティーを開くこと(参加すること)です。これは日本を発つとき、お世話になったある先生から伺ったことなのですが、本当にお勧めです。Portland に一ヶ月間の研究修行に行ったときもこれで問題ありませんでした。

今後は、自分だけのオリジナルの研究を考えていかなければなりません。今のラボではボスが興味のあることから、オリジナルのアイデアを見つけている段階です。このポスドクという時間に、

自分の中でさらにもがいてみたいと思っています。

最後に

タイトルの「ハズゴーン」についての話です。私はこれを has gone? としか聞き取れず、「…死んだ? (おかしい, いきなり笑顔でそれはない) …どこにいった? という意味か? でも主語がないよ

な～なにこれ～」と頭の中で色々な日本語を駆け巡らせ、「(えーい) あっち」と返答してしまいました。相手も困惑していたので、ものすごく気になり、帰宅後すぐに英語の本で意味を調べました。やってしまいました。もう大赤面, 大ショックでした。これは英語で書くと How is it going? であり, How are you? What's up? と同じ意味です。返答は Not much, and you? でいいらしいです。